

新たなステージに対応した防災気象情報の改善（概要）

基本的方向性

- 社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなくとも発生のおそれを積極的に伝えていく。
- 危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分かりやすく情報を提供していく。

改善Ⅰ 危険度を色分けした時系列

H29年5月17日
運用開始

- 今後予測される雨量等や危険度の推移を時系列で提供
- 危険度を色分け

【改善策】

平成×年×月×日×時×分×地方気象台発表
××市

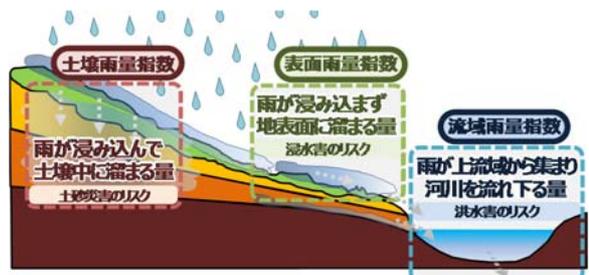
発表・注意報の種類	今後の推移(■警報級 ■注意報級)						
	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日
1時間最大雨量(ミリ)	10	10	30	30	50	50	30
(浸水害)							
風向	陸上						
風速(メートル)	陸上						
波浪	5	5	8	8	8	8	7
波高(メートル)	0.7	0.7	0.8	1.0	1.0	1.0	1.2
潮位(メートル)							

【現在】
注意報・警報
(文章形式)

改善Ⅲ 危険度分布（メッシュ情報）の充実

H29年7月4日
運用開始予定

- 災害発生の危険度の高まりを評価する技術の開発（表面雨量指数・流域雨量指数）
- 【降雨により災害発生の危険度が高まるメカニズム】



- 大雨警報・洪水警報等を発表した市町村内においてどこで実際に危険度が高まっているかを確認できる危険度分布の提供



- 危険度分布の技術を活用した大雨特別警報の発表対象区域の改善

1

改善Ⅱ 「警報級の可能性」の提供

H29年5月17日
運用開始

- 夜間の避難等の対応を支援する観点から、可能性が高くなくても、「明朝までに警報級の現象になる可能性」を夕方までに発表
- 台風等対応のタイムライン支援の観点から、数日先までの警報級の現象になる可能性を提供

日付	明朝まで	明日	明後日	(金)	(土)	(日)
警報級の可能性	雨 中	—	—	中	高	—
風	中	—	—	高	高	—

大雨警報(浸水害)を改善するための表面雨量指数の導入、及び、大雨警報(浸水害)の危険度分布の提供（平成29年7月4日13時 運用開始予定）

- ① 大雨警報(浸水害)の改善を図るため、大雨警報(浸水害)の発表基準に、短時間強雨による浸水害発生との相関が雨量よりも高い指数(表面雨量指数)を導入する。
- ② 大雨警報(浸水害)を補足するため、市町村内のどこで大雨警報(浸水害)基準値に達するかを視覚的に確認できるよう、表面雨量指数を基準値で判定した結果を危険度分布の予測を示す情報として提供する。

危険度の高まりを伝える情報

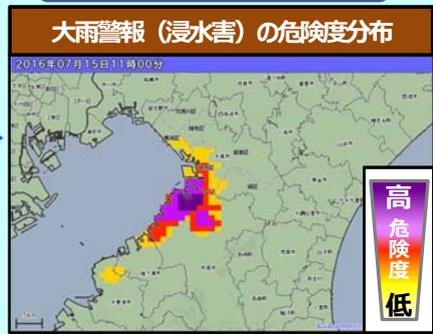
- 大雨注意報
- 大雨警報(浸水害)

危険度の高まりを伝える



危険な地域を視覚的に確認

警報等を補足する情報



市町村内のどこが危険か分かりやすく表示

短時間強雨による浸水害発生と相関が高い指標

表面雨量指数



大雨注・警報(浸水害)の発表基準として、「表面雨量指数」を導入(雨量基準は廃止)

基準判定結果を地図上にメッシュ情報で表示

2

洪水警報を改善するための流域雨量指数の精緻化及び、
洪水警報の危険度分布の提供（平成29年7月4日13時 運用開始予定）

- ① 洪水警報の改善を図るため、洪水警報発表の基となる指数(流域雨量指数)を精緻化する。
- ② 洪水警報を補足するため、市町村内のどこで洪水警報基準値に達するかを視覚的に確認できるよ
う、精緻化した流域雨量指数を基準値で判定した結果を危険度分布の予測を示す情報として提供する。



危険度分布の技術を活用した大雨特別警報の
発表対象区域の改善（平成29年7月4日13時 運用開始予定）

現状 数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を全て大雨特別警報に切り替えて発表。

改善後 数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を大雨特別警報に切り替えて発表。
ただし、危険度分布の技術を活用して、危険度が著しく高まっていないと判断できる市町村は除く。

